國名所圖會 一之卷

海部郡

内閣文庫
和書
類
八六六六號
二三冊
一七六函
一架

内閣文庫
番號 和 8666
冊數 23 (3)
函號 176 14

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

紀伊國名所圖會巻之二目録

ちゐ松茶屋
弥勒ち山
雑賀浦
雑賀浦 鶴巣巌 秋月岩
九品寺観漢寺
鶴立嶋
甲斐寺
戸辺浦
紀ノ川
名草海樓
妹背山
妹背海苔
根上り松
雑賀合戦
梅溪翁旧宅趾 教専上人巌
秋葉大権現
戸辺ち旧趾
兵戦大社
行者の井戸
着保ち 二天 大黒天 一加住義 林泉 思ひ出井
芦辺茶屋 唐門
三断橋 埠門 鯨
名草院 岩倉橋院 地蔵院 宮橋院
鬼の目岩
雑賀野
小江浦
矢宮 春日 合思宮 両宮 稲荷 鼻除神社
小町峯
宗徒松
芦辺国祖
亀淵巌
蛭の宮
宗徒瀬
雑賀城趾
妙見岩
郭公洞
観海樓
獨鈷鎖

四條大納言遊覽

岩根茂

私敦松原

天満宮

浦の初嶋

玉津島神社

神興舎

石祭

勝ゝん

東照宮

拝殿

護摩堂

唐門

私敦浦

仲實吸子

綱引

宝庫

津守国基霊廟

箱ゝん

薬師堂

神楽所

開山堂

玉出島

大相院

東照宮御旅所

高松茶屋

私敦浦の住家よ
神城府の繁
業ふくろれい

絲よりの
ふれたりけん
魚壱代
ちゝよゆつるよ
つゝゝ
りよへ

若山
蛍雪斎

根上り松

家集
る日しに
きあはせる
のべどもの
根ふれ松
ひろくや
よ世ろ
こう仏
まこと
清正

根上り松

[illegible]の南部七八丁ばかり此地の堂すぐに其根[illegible]あらはれ出て[illegible]の名あり[illegible]

源安足

[illegible]根[illegible]なる松[illegible]

[illegible]の日の来のころ　京　丈石

[illegible]の巣や根[illegible]り松の小ぐらく梁　牛　羽

愛宕山多聞寺

[illegible]宮大権現　山上に安[illegible]

[illegible]寺院　地蔵院　[illegible]

[illegible]の本殿[illegible]

[illegible]

[illegible]

圓珠院
愛宕権現
鶴口石

去來

信長公おほせつけられ、織田右府様、軍馬をとゝしむる、欲ちがく
浅井備前守殿、朱印倉ちがへの後敵すゝ脱ふゝくゝ攻亡し、れ
ゝしいろゝの要害堅固の城なりしも不日に落ざるゝ事なく
あぶるゝ所ゝの山の沸出せつゝ、ちがへ国ゝ、ゝ唯つゝを
の堀のゝゝ諸国馬合の門ふこゝ形成寄り所ぐちがふ
ひくまゝ、ゝ、ゝ、

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

雜賀浦
名巢巖
儀釣岩
教大巖

題釣叟圖

未遇周王出還辭漢主歸終年釣不得生計初來非

縣周南

ヲクラ巢
ヲクラ巖
ヲクラ
タレ
ヲクラ
ヲクラ
ヲクラ

[illegible]

雑賀野　[illegible]十月　幸紀伊国時作歌

[illegible]

雑賀浦　[illegible]

[illegible]

夫本　紀の[illegible]の浦の[illegible]

梅溪釣舎宅趾　[illegible]

[illegible]

月釣岩

小江の浦

道宿称赤人

藤原卿

頼平

名草濱通入此所
中古連関為逆云

正治百　[illegible]の浦の[illegible]　正三位経家

雑賀崎浦

[illegible]

賦漁父　中洲

[illegible]

[illegible]

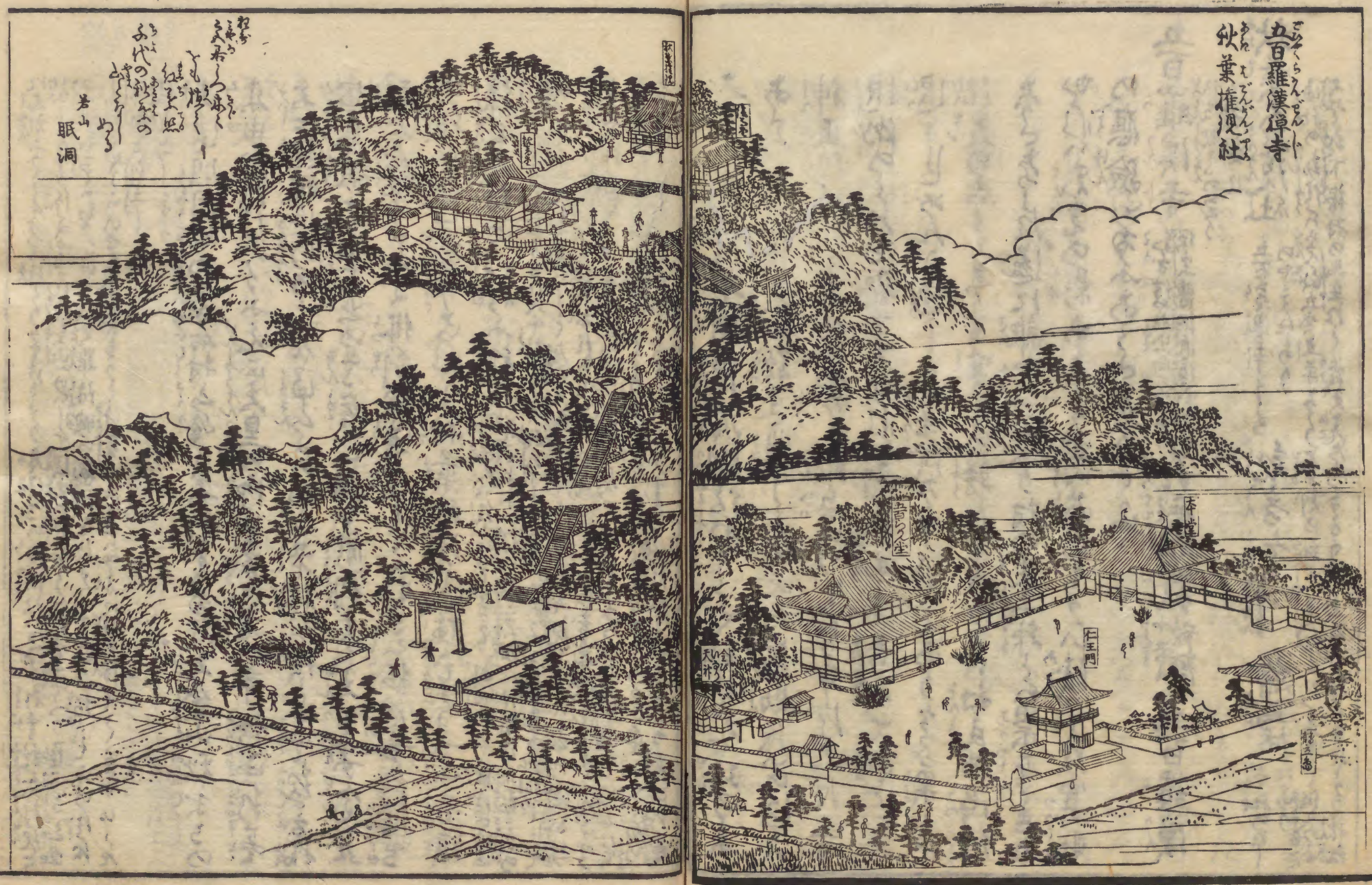
御門主に大ようなる男子御合躰なるごろ雑を迎えられ
いつとりて教ゆ上人と御動道の神山臣さう果しく織田方くら
大坂へ討入とさ一向らび新御門に大坂方も歩わるるず雲
に御流浪なりたるいんん天正八年八月二日泉州佐野川の
孫市なるものに俱ひてきゆるつもたなまひしらぐも発奮
み織田方よりく空疫とるく兵士とてかちてるまいしいるる
ふいまそ陣列も老くいぐやと思ひづひまとりしも雑かの門徒
の内ところにより毛を織ることのあらくゆわに志のぐもまら
ひーようー御門をひとりみきこーやるんくちん
浦の船よりをひとりる新ちく考の巣にすひみさ松を臣
しぶくあとびさまひけるとうん是をうーてかくるだくくうや
名道ろく花にるゆく巣をうれ　美濃　恕風
矢宮　村はより離かる三十一ケ村の生神にて
例祭九月十三日流滴馬数十疋あり　祀神一座武角身命

末社 住吉 春日 金毘羅 西宮 稲荷 神殿 神主家にあり 駒留の松 繁茂して枝葉のごとく陽れ蓋を展ひろ
又疫除の神札 神主家にて毎年正月元日の朝門に張る
社伝に曰ふ天平年間此地に雑樹茂り深林なりしに或る
其夜一のうらよりうるはしき女を伴ひ里人怪
ひうたがひ探るに一夏の白羽の矢なりしに
里人其神なることを知りて厚く叢祠
をいとなみ崇敬しつゝ神託記に曰ふ此
これ軍神なり永く吾が尊崇祭べし吉凶を
深くさいはひすべしと云ふ
按ずるに此社は矢田部の北にあるべし 姓氏録山城国神別天
田部 鴨縣主同祖 鴨建津身の後也 とあり 小すみの中に
神名帳に書鴨縣主の条に鴨縣主加茂縣主同祖 神日本磐余彦天
皇 神後也 次向中洲之時山中險絶波荒失路於是神亀命孫鴨
建津之身命化如大鳥翔飛奉導遂達中洲時天皇喜其右翼
特厚褒賞 八咫烏之号 是始也 是鴨建津之身命 大鳥
と云ふ 皇師と云ふ 後の世よりの称 神祇に軍神とあるべし
ゆとする 社伝の神慮に軍神とあるべし

きつふ天平五年織田府 法名を雑賀を攻るに
あるに村民大よ弱きを必しもいたく冥助なしの已べ
神亟祝に託して曰く敵兵のつらなるべし三月三日
退治のことを朝するに朝よりく五月五日に
退さしめんと宣しく法のごとくすべしとあるに果して
法宣のごとくに来りて味方の勝利なるべし村民の治作
大きに豊に遂に雑賀二十ヶ村の生土神として崇敬
かゝる社の影あるに冥助
の應験あるにあらずや
五百羅漢寺 五百尼漢寺 ありし 紀氏録 中央 無 秋山伝 五百羅漢
秋葉大権現社 五百尼漢寺 ありし 紀言 繪馬 社の
海辺の動静を望見する 五条五年 大和 下根村の生土 紀氏録 秋山

五百羅漢禅寺

紅葉権現社



国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芦辺寺四跡　法師谷　演光寺のうしろのたにをいう

小町が峯　法印谷のうしろ小町がすみかなり

蜆の宮　五百羅漢のうしろ　甲崎　蜆宮小一町にあり　辨財天社　日正にあり　百枝へ妹背山ぐち小町がすみかなり

宗徒の墓　甲崎の川ばたに　宗徒瀬　百日ごろ宗徒の歩行ありし所

遊弱浦

弱浦標勝境壮観天下奇。霊嶽孕宝符神功極二儀二儀高下擎遠眸南呑三峯接十洲激浪噴雪動地軸嵌空雲帆蠻貂舟指頭淡島青一泉天柱想望幾千秋玉島鍾秀駕鼇背嵒户松径彩雲浮春樹長凝仙仗色翠萃消息空悠悠。

神祖宮殿摩蒼天賀雲石磴排星躔昇平久沐至治澤本支百世日月懸管公祠廟欽威霊蒼翠深籠古松烟宵旰空傳袞龍補一時文獻永赫然金剛遥望望海樓環洲夕漲擁岸邊野樹津亭遠基布舟鹵渺渺接鹽田石橋穹窿臥長虹崖路轉開琳宮松江鶴唳沙鬚雨葦岸人倚酒旗風亀巌棹石相向背恍望飛閣聳雲中雲中奇観無端倪臨汎客與或扳躋探馭剰得十洲趣瓊楼瑤闕耐可探秦皇求仙徒航海穆王周遊風四蹄若便海槎得相通神眩空噬當時瞻勝境可賦趣可樂胸中山水元領略山水争衡來奏奇胸堂為之漫磊落壮観難極奇中奇幾回欲賦筆相閣

芦辺浦　御製

新後拾遺　あしべきこのへうらとすべていへのあまのつりせしかたをしるらん

あしべのあまのつりせしかたをしるらん　あしべのあまのつりせしかたをしるらん

新勅千　あしべのうら芦辺の田鶴のちとせまつ　たまきはる

玉葉　あしの浦よりしほくだしてあしべのつるのこゑのとどかん

續後撰　わかのうらや代ふるかたの田鶴のふるすの姿しさ

日　芦田鶴の世ふるかたもとくしほくだしてあしべのつるの風

日　ふるのうらや雪をとめてあしべのつるのこゑもとどかん

新千　年ふりて世ふるかたの芦田鶴のたちまつる芦辺のつる

日　けふしもの雪のあけぼのくれなゐのうらの人

新拾遺　和歌の浦よりかへるたちの雪ふるとてあけぼのの

新後拾　今はくしほくだしてあしべのつるのうしろみ

新續後　芦のうしろの芦辺のうらの邑人うしほくだして立霞の邨

日　雪ふるとて風のうらの芦辺のうらの立霞

法印實甚　法眼源兼　藤原長遠　花園院　桜察使實継　二條院讃岐　前参議行忠　須阿法師

家集　芦間鶴のわかの浦にてよしたるかの田鶴もなく　無品親王

拾玉　わかの浦の芦ふかの芦ふかの秋ときこゆ　清輔朝臣

月清　芦ふかのあしの間の月のかたちに千歳とりて　慈法和尚

玉葉　あしたつのなくなくつけても考とたのもしかの浦風　後京極摂政大政大臣

壬二　わかの浦を手まくとる芦ふかれゆるる上毛に霜を重る　定家

家集　わかの浦の月は芦辺よりいでて入合の海　家隆

瓊玉　芦間なる月の光もすくなくて夜に入るは芦の花　為家

雪玉　わかのうらの芦ふかの月津風吉　宗尊親王

芦の葉のうらやはなくて田鶴もちらすあし　實隆

澪標　こしうたしやあしの田鶴　寺武

行葉の芦　わかの浦や村のかの入くちにあり　槐亭

生ぶるもあんの地もいたしへへあるいはいはの船まの船の船まの船まの船まの

養珠寺
妙見堂

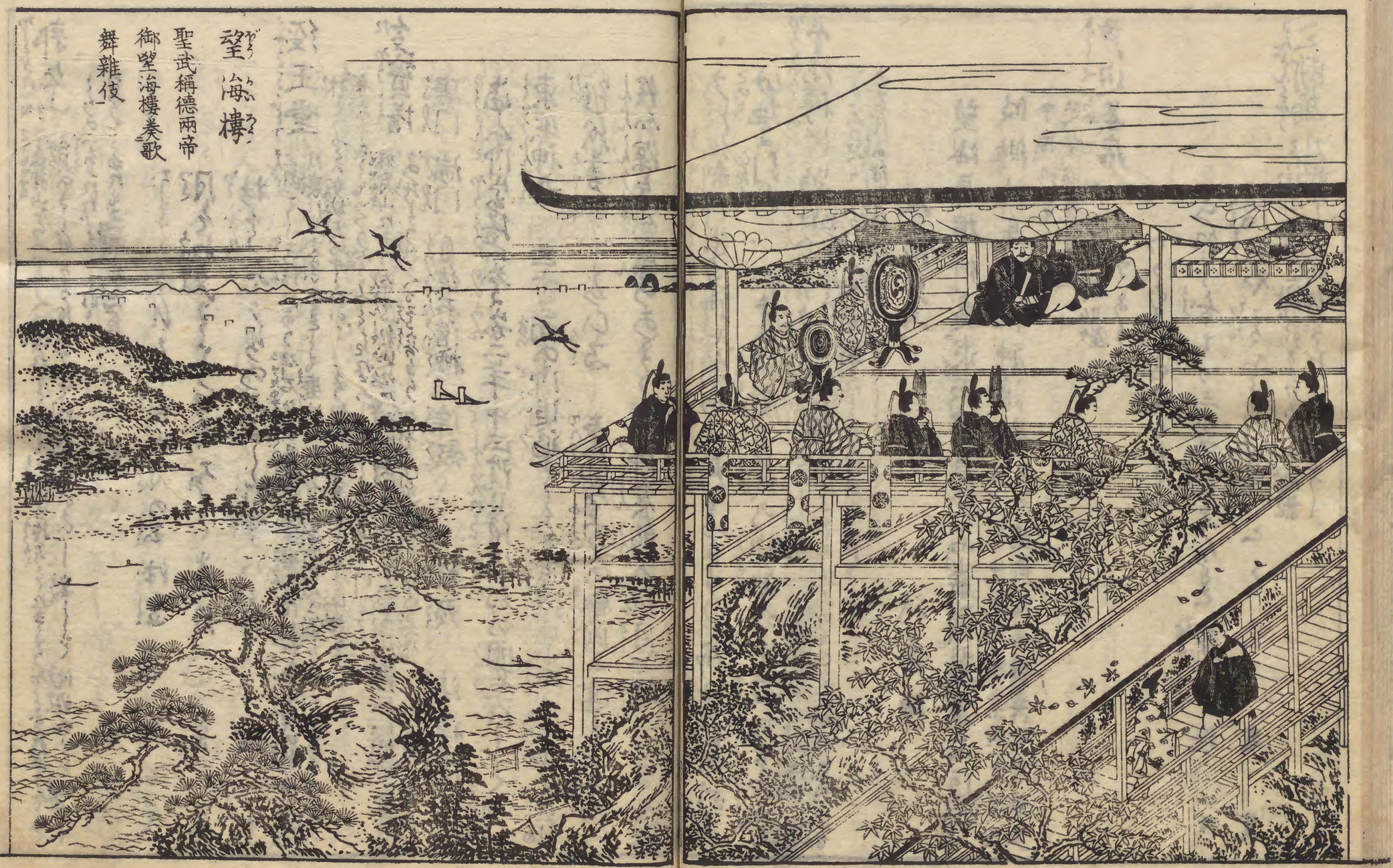
養珠寺賞
垂絲櫻花

夜來新雨足枝故十
分妍弯々比梨暖條
々借柳縣空手称地勝
槩客醉花壹年但恐
暴風夜正逢寒食前。
祇南海

垂絲宜春花
宜春苑裏競妖嬈移
種遥隨南海潮織方
機絲天外落仙姬鍼
線日邊飄樓風白髮
三千丈帶雪垂楊十
萬條曾作東方春
色主年年獨立衆
芳朝。
崧岳

書院　養珠院殿後州にはらそ門座市殿にて
画いたる俗　前亜相頼宣卿今にてはこれ
林泉　ちかい庭中の池よりくるぶし秋
思齊丹泉　南龍院殿　大恵院殿　香雲院殿
大恵院殿くるまの人市見ちかいの
たちまちとちくんの手向水むしとなりて
妙貝堂　中央妙貝菩薩　左三十番神　右東照神君　五番善神
南龍院殿市等身の像
牛角石　南龍公手ずから人
南龍三年の市造立
諸半坊い後州の市館　養珠院殿の市座市殿ちう市生世のうた

たうて仏刹市造立市心願あり
地より引移りたまへ佛殿い古代の仏
平沼樓遺跡　土人妙貝山
登妙貝山　祇南海
望海樓何處求玉津島北石巖頭翠華不返煙
波側沙鳥雲帆神護秋。　称徳帝神護元年幸明光浦詣玉津嶋御堅海樓奏歌舞雜伎
今按妙見山乃是望海樓遺跡
芦辺茶店　芦辺屋朝日屋
の二軒あり
ちあ辺の茶やとちう
ちうちうの花ちうと夢　淡々
探いや　ちうこ　こ　こ　貫
こ断橋　紀州西湖の六橋のうちの一橋景



国立公文書館
National Archives of Japan

郭公山　今妹背山とも云ふ　無名氏

郭公山の名のみ聞きしかど今日の日のきこえぬるかな

わくらとこゝにも又鳴くほとゝぎす　宗祇

ちはやぶる　五月の雨の　沼の面

月そ残りて　ちらぬ花　ちる花

牡丹をゝりのあるじ　丸傘　淡々

経王堂　三浦にあり　裏にも文字あまたあり　磨滅わかつ　日蓮の筆なり　日蓮の筆なり　日蓮の筆なり

観海図

名所山
水閣涼風
妹巖景比
他殊閣上

遊人無日無
尤是清涼不
知夏天風吹
月過平湖
祇南海
狂歌
ゆふ山そ
紀三井寺
朝屋
貞柳

妹背山とゝあるは此山なり仏羅山はちゝびく石貨
おゝ間ゞ住者人の家の形ち出でゝ人のもたゝ山わらつ面
の入ゆゝくあゝゝみや石面消ゝまにして仏殿の本堂ふ
仏ゝしゝゝかゝゝつゝゝ

國祖君御造営あり

三つの橋ゝゝゝゝ山のめゝゝい石とゝゝゝまれゝゝ山上にの
宮居ゝゝゝ後ゝゝ石階ゝゝゝて小樓ありゝゝゝゝゝゝあゝ
和ゝのゝゝ本面い名州山ゝゝゝ山ゝ絶めゝゝ法ゝ絶たゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝ沸製地ゝゝゝゝゝゝも下民の拝殿とゝゝゝゝ四季
ゝゝゝの間ゝゝゝゝゝゝ

埃岸上人言李郭傳卿杯向天仰大笑明月落杯河影浮使
君特贈紫錦鱗兼之玉醪紅新篘高僧亦須香積厨石花雲
芽秋菰桑住期如此人不醉嫦娥笑人空白頭不情十千盡
一復賒為君掃盡萬古愁君不見冶兼丞相気如虎遷都鄙
謂開天府南渡衣冠郷夢冷捧月淡島及明浦借問人與月
孰有無唯聽蘆荻風今古人生歓樂奈老何帳望斜月沉江
波嗟我安得虹蜺長萬丈躡俎天梯挽回玉轡於金樞之何

此一夕久野君馳使賜鯉魚及美醴養珠寺隆一上一人聞アカ船過門前贈行厨

妹背海苔

彼島に行てとりし海苔を此島に行て刈取る事に凝る月に凝る事の幸凛例なるべしと上人

嵐乃祠

王使の神社南方にあり

こゝ上古王使岩の神祭れる神奉あり沖嶋所の旧跡なり

永禄年中まゝ〻祭日此嵐へ神輿渡幸あるなりし風

波急に終てとゝく神輿とゝまりやへ去て漂没〻〻其のち神幸
を止めあり事ふるし〻〻なる所明神の神輿此ところへ渡臣
こゝありたるこゝろ其由ゆえ所明神ゆ沖嶋姫と墓を色た
まし沖馬にくまのびゝ通ひいなると冊生明神安ゝ〻と
に男倉なんび彼玉使岩の神奉なる冊生明神
の沖ゆにく事の言とゝ
此記にのセたり

大伝言を任て家集よりいるるこゝ本よりこゝ加ゆ小ゆ
きーぱーにーるーりくあるこゝ日歩くまりでんくくあるふ遊ばかつるゝ〻〻
でゝ〻ゝりあひのれゝ〻ゝりゝ中ゝりゝ中ゝりゝ
のゝりにあるのゝ家ゝすゝにく舟ゝ〻ゝ何ゝ〻ゝりゝ
ゝりゝゝゝ

海士人のけうぶ[illegible]と云て[illegible]

あまのゝもしほ[illegible]の花とやわれてよとゝん　少将

しゝへは

彼きゝ[illegible]と云て岩ひゝの浦新と者[illegible]　公任

[illegible]

[illegible]

[illegible]

犯神の事侍區くちつくり偽ことをつくり出たり

神樂舍　神輿ハ明和中近衛關白殿下の御寄附　寶庫　三十六歌仙圖狩野奥甫

禁裏御所御代々御法樂

正應四年　靈元上皇御奉納銘曰

石藥双巻　神前常夜燈御願御成就書　赤甲冑　敦直の銘

兼應四年　國君より御奉納銘曰

同　双巻

於戯靈瑞。于今千昔。貧堅影。史。永世同跡。

神亀元年　甲戌子　冬十月五日幸紀伊国時山部赤人作歌一首

并短歌

万葉

安見知之　和期大王之　常宮等　仕奉流　左日鹿野由　背上尓

所見奥嶋　清波　瀲尓　風吹者　白浪　左和伎潮干者　玉藻苅管

神代従然　尊吉　玉津島　夜麻

返歌

同　奥鴨　荒磯之　玉藻　潮干　満　伊隱　去者　所念　武香　聞

同　玉津嶋　於　見　向　伊座　青丹吉　平城　有　人之　待　問者　如何　作者不知。

同　玉津島　雖見　不飽　何　為　而　裏　特　将　去　不　人　為　同

同　玉津島　見　善　雲　五　吾　無　京　往　而　戀　思　者　同

同　玉津嶋　蔦　儀　之　裏　赤　之　真　名　仁　文　爾　保　比　去　名　妹　綱　淩　人　麻　呂

古今　和田原　よせる　浪の　まくも　みまくの　かしこ　玉津嶋　人　麻　呂

後撰　玉津嶋　海　入江　とぐ　舟の　うらゝ　恋　つゝ　ふる　舟

金葉　玉川の　岸　つ　波の　ユラ　ゆ　ふ　そ　ま　ー　ぬ　ゆ　ら　ひ　も

續後　人　ら　ま　と　ま　ひ　ん　玉　川　の　ま　ま　す　む　人　は　の　春　の　あ　け　か　の

續古　いとゝ　わ　ま　浦　風　な　て　ま　ら　ん　玉　津　嶋　姫　参議為氏

同　ひ　て　と　わ　ま　の　浦　波　ふ　あ　ー　ま　ま　や　待　玉　津　姫　損政為大政大臣

續古　ひ　度　ー　波　と　も　に　ま　ま　ま　ー　ま　ま　ま

は
は
は

西楓　住吉や玉の宿れひさしき　栄雅
千首　差のぼる月のあけぬれば玉津島　宋雅
耳露　限まてもさかえくるかの海をくてた月新　前右大臣
柏玉　あつめ来くみまくの池に百枝の柏の葉ひとしき玉津島　源朝臣
雪玉　あらはるる雪をあつめこれをこそ長のたまつしるひあ　後柏原院御製
千首　なてひるたまやそらさかえのつ[illegible]ふつ[illegible]玉つしるあ　實隆
同　そ[illegible]神ぬたはめむ玉つ岩根[illegible]　牡丹花
同　すぎまてもはるまの山玉津島神の誓も世くに拾ま　耕雲
哥合　世へのるみそこ[illegible]玉たまくあくるのうの岩ふ　春宮大夫師兼
良玉　にうるたまつ[illegible]の小松[illegible]あ[illegible]ん[illegible]世のうみそこへけ[illegible]　天台座主[illegible]
永久　玉津岩入日の小屋ねひたうつ[illegible]神素[illegible]やうは[illegible]　相模
家集　[illegible]ひのこと玉津島はふ[illegible]ふ[illegible]の秋うまき月とん　よみ人しらず
千首　神むとてあらうもの入日の月のあけうさのそう　民部卿藤原雅有

卅根　胡あのく霞む入日の玉津島やそ寿のそそうん　正徹
六帖　玉津島入日の小松[illegible]ち[illegible]先世[illegible]　無名
當社神座の本縁旧記のはし[illegible]　[illegible]の額
[illegible]の[illegible]の[illegible]風[illegible]既に尚[illegible]に萬治年間
國祖君前亜相公旧趾の叢蓋と[illegible]ふ[illegible]
[illegible]の儀式と[illegible]
祭奠の儀式と[illegible]
聖護院宮二品法親王[illegible]
[illegible]
上皇勅感[illegible]
卜部氏[illegible]
玉津島神の本[illegible]
[illegible]
[illegible]

さいぐ春秋二時の神祭礼ひ始まりそのち
上皇古今集神傳受のこゝあるもたゞよう神法楽のこゝ
神製の和哥こと首ゆゝしび公卿の詠哥四十七首紀合五十首の
和哥神奉納あり色なまこゝろ和よ絶くくだれる和がねろ
宮居あゝこに荘厳のゆゝをまし神殿赫赫くくしく四方にり
やゝゝ山もも玉出岩の名よ有つる和の一首恋ふるゝ雖編ふ
國但君神無真の方ちゝに恋て和人合歌ゝく共時とゐたまう人
ゝやゝゝ

○玉津嶋と云る称呼古今寛革ある事（神り花神のことれ　ちゝの神ところ事）

世俗ゝ玉津姫の神と衣通姫たゝゝいゝく和哥の神ゝする
ゝ其謂ゝたゝあゝに其ゝ神中抄題昭ゝ板花京亮被申
住吉神主國基ゝ住吉宮ゝ社ゝ玉津岩明神即
衣通姫ゝ陵ゝ所ゝ社ゝ紀ゝ又住浦住州ゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

日本後紀桓武天皇延暦二十三年冬十月壬子幸紀伊国玉出嶋
又三代實録元慶五年冬十二月廿二日丁酉紀伊国正六位上玉出峯
神授従五位下　又扶桑畧記延喜六年二月七日授玉出嶋明神従
五位上云々
又宇津保物語吹上巻上に　あゝ〜の君
手を洗ひ清めて玉のはこをあけ給へる　侍　従
おもしろき立ち居の清らにてとびなるゝ鶴　いでたちは
玉づくしにあこめ口ゝ海のなかにちよろこびあるが　らうとけ
ゝ其證なり但今ゝ延喜五年頃〜ゝなると常に約て
なるべしまた世に枕草のもろもろの語ゆゑ考ふる
神功皇后新羅を征したまふ干珠満珠の二顆のもの海
なかひかり浦のもとに光れてそこらの島々くうゝ
名にし負へるなるべし其凱陣のもとれ杜若杉原の國

国立公文書館
National Archives of Japan

住吉大津考二所とあり古事十三ヶ所の日〻の祭の日と
ゆく衆人海参するこもこえより同じ祭にまつりあたるを
ぞやうかりく思つる住吉の玉出の玉出の岸あるい彼皇后
を祭るとより昔く尚亦ひろくかことにも呼ちり色ちる
べし武庫の手島の二所い紀伊国日前宮にはしくつうこと
別古にはこにてもあるべし日おいはいめ名神の陰乃
南濱のよふ在〻く尚社〻と其所の拾ひ小べ彼もいと
尚社〻彼ひ〻幸社の日前宮〻〻〻

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]十五秋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

林泉風色出雅ゝく後山へ白雲構の遺江ちうしを南ふ
むしあるも屋風と立るごとく千万れ聳へ方丈の書院より蓋
夜ちうたゞし蘇鉄藤其余奇樹怪石のごとくふもこゝ
ばかりまた絶頂よりのぞう手しゝく本の根岩ゝんすうう眺
ちとうふ月ゝうめんとゆうゝく水行を生ず

和歌松原　天慶五丙のゝうう玉陛しゝの跡まで松林ゝくゝゝりしとそ其比い
東海宮ゝ居きゝ人ゝ古
松ありいとゝ多樹ゝゝふとゝゝゝゝ新千載と終ゝ一万代ゝ行の
後陽　雪後ゝ和歌の松原ゝうたゝう新世へゝゝん玉陛ゝ行ゝ
支本中　夕あたの春ゝ塩干い新ゝそ霞ゝきとれ和ゝうの松原
後会右大臣
中務ゝみと
西櫻　風ゝゝゝゝ

妹背山
多寶塔
観海樓
二ツ断橋
芦邊茶屋

親江上迢遥
住客船子
規啼盡暮
春天鼓聲
一夜催雙
涙回首鄉
雲落月邊
大江資衡

明光蘆花
弱浦一名
明光浦古
人有蘆鶴
咏今右蘆
亭
開倚西風散
倚波蕭寒却
比琴花多曉
飛宿雁月侵
夢夜釣漁舟
雲滿蓑
祖南海

其二
天狗山
大相院
俊覺山
勝上

玉島澄暉
上石宮廟前澄江秋月志清
風鳴江草夜漫々。
神女不還秋月圓。
二十五絃空一座。
霜華如畫水雲寒。
祇南海
内侍
大屋
下條
作蘭井
俊家
洗山
蘭洗岩

其三

東照宮

廟地肅清海
氣收登來忽
傍彩雲浮旣
知身是帰叢
爵常飽腹因
放野牛春滿
山河封永拱
世懸日月照
皇猷生涯幸
遇臯如化幾

見衣冠歳出
遊
熊野崖苑人

天王社
大井
西ノ宮
今宮
宗教寺

其四
天満宮

和歌浦

秋日遊明光浦

東南山水美。
未有若明光
惜乎數十歲。
奇詣無一章。
吾今傲雲月
斗酒攪枯腸。
安得李太白
百篇共商量。

祇南海　其五

題和歌浦圖

明光浦上幾回去。
美景今入憂思毫。
今日觀圖詩思動。
卷舒吟誦意陶。

伊藤蘭嵎

入道左大臣

雪ふれば和歌の松原埋まくに塩干れば岡の葦根を洗ふ　雅永朝臣

和歌御宮

所西の方にあり。中御門天皇宸筆。天満宮を尊奉し給ふと奉安。

天満宮奉拜御神座

東照大權現　日吉山王權現　摩陀羅神

拜殿　鰐口三口

唐門　彫刻のかぶとあり

神馬所

唐門の脇にあり

樓門　樓門の中にあり五大明王十二天像と安置

三重浮圖塔　塔の中に大日如來の像と安置

護摩堂　樓門の西にあり半間四方の堂内に不動明王の像と安置

藥師堂

開山堂

大僧正天海の像を安置

御橋

手欄擬宝珠あり　この下を国日山門院内に流る。

神財天祠

御橋の東にあり

石碑表

銘曰東照揚日。華表劉石。維明維堅。萬世無跡。

国立公文書館
National Archives of Japan

當　御宮ハ元和二年庚申の歳乃御造営にて比叡山大僧正慈眼大師の開山なり御本地ハ藥師瑠璃光如來なり〻〻相殿に摩陀羅神ならびに日光山王權現立ならひに此ぞく東照三宮〻〻奉まつる忍冬も　神君御在世の御ゆかりも今〻追ふく思ひなるよ天文元年亀の間天下擾乱〻〻武將志人に〻〻ゆ織田豊臣の両將是ぐ治り後よりてゆ事ハ屋にとゝぐもゝの是武ゆ偏ふ〻〻文ゆ疎く文ゆ素ゆの安ゆつゝとあらゆ未発ゆ考ゆの和やまゝん為〻ひ乱きむとゝ世ゝゝるあゝ〻〻

神君勃発〻て起〻ゆひて戎衣〻〻完徒と平げ和く干戈の霜と勃陽ゆ消〻長ゆ民草の栄と春風ゆ靡ゆ〻〻たゝゝゝ慶淵ゆ白ゆ小ゆ紅梅のゆゝゝび枝柔に輝くゝゝ

御德ハ　御神号にもいちゝる〻

御影のて見まゆる陰ハ尤ゆ〻〻

亀の尾乃緑ハ色七ゆ〻そひ移の艶発ゆ〻〻

ゆゝゝまつる〻〻ゆ莫ゆの　奥ゆ〻〻ゆふゆゝゝゆ

中も恐多ゆ〻し〻も麓ゆう山上ゆ〻〻ゆ石垣ゆ立ゆ〻〻ゆ

朱の玉垣ゆ深く林立の後翠ゆ映常〻て〻阪の迷路ゆ疑〻

神威ゆのづ〻〻厳ゆ坐ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ

三葉四葉ゆ若ゆ〻〻美ゆ〻〻輪奥ゆ〻〻〻〻ゆ

奪ゆ殿ゆの桜花ハ二月の山ゆう〻〻ゆ〻〻ゆ

ゆゝ長ゆ傍ゆ松樹ハ秋ゆ〻〻ゆ〻〻ゆ〻〻ゆ

翠色ハ〻〻ゆ

御代〻〻ゆ宮の御ハ〻〻ゆ

風流と

御祭礼之事

毎月十七日　寛政年間九月十七日御山の市〻賑小路〻〻相撲あり

然中秋中四月十七日の御祭礼ハ自除の式にて本うゆ御山の

[illegible]

図目

[illegible]

○海船二十人○客船二十人○[illegible]○[illegible]○[illegible]

東照神君御祭所
神幸市祭式

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

野氏。幸長公。就昨土之封之五年。相舊制之溢陋而於
邑不惜爲然神之主。先成民而後致力於祚。鑿開兆
域。依崖壁畳鉅石。蹈攀峰嵘百工子如來。行堂不日
以落矣。刻畫華彩。丹漆黝聖。延裒之崇壯。然新
奪目若狄梁公毀江淮淫祀一千七百區。所存者惟夏禹
位子晉二廟。君子猶以爲存位子晉廟未是国主之
所此廟可毀乎以新爲。可燒乎以崇爲。所爲可忘而已。
羅山詩集云。倭歌浦天滿宮者。未詳其艸創之時世
也。其從來已久矣。或曰。橋直幹自宰府敗京師時。過此
浦而始崇奉焉。今所存者。後幸長之所改造也。頃歳
滕惺窩應幸長之求而作廟碑銘。然有故不建碑云。
菅氏家風儒者宗。霊神今古仰遺跡西都北陬南

洞浦。三處祠堂一色松

和歌浦 （今西南出岩浦あり上古いろは言枕なる紙よ）

浦いりみ浦

万葉 芦浦尓白浪立而真風寒暮者山跡之所念 柿本人麻呂

〃 芦乃浦尓紬左陪泊而忘貝拾捋妹者不所忘尓 作者不詳

後拾 老の浪よるもしらぬいそもまろんの浦たに 藤原卿

詞花 芦仮や久米の仮ふしと芦くもも芦の浦をそへりける 連敏法師

〃 芦の浦くもにくもれる風ふくは波のうへにちるかな 大納言師頼

千載 約手い波くさたにやうくもりもりもる芦のうへ 贈左大臣

新古 藻塩くさうくも焼君代ろ物ふるみとりの浦波 祝部成仲

〃 和歌の浦ふ家の風ふもちもしも波ふ目ふ色ふ 源家長

〃 芦の浦に月れ出ふれのさすもに波の形のそうかふ 民部卿範光

〃 芦の浦や沖波ふかひようひ出る長家の声の智よ 茂 忠

〃 芦のうへとれのうとに波の物ふする遊人のたうう 家 隆

寂 蓮

国立公文書館
National Archives of Japan

新勅

わの浦ふきつまふ海士の藻塩艸とゝむ斗ふ杉を果ん　法眼宗圓

きゝわけぬ世をなやいつる山ん我身よりゝねわのうゝ浪　行念法師

袖ぬれて袖のうにとゝんとゝん芦の浦波のあまのゝりの本　俊成

和ゝの浦ふ塩ふきまる袖ふてゝ焼藻の波ふてゝ　西行法師

續後

わの浦や塩干ぬくふすしちゝ玉ま波をゝ　前大政大臣

和ゝの浦や雪ふのもくゝ花てあゝの志ゝの花ゝ　正三位知家

芦浦や波ふてゝ波の藻塩艸ゝ物ゝてゝまゝやゝちゝん　藤原為綱

ゝゝれ艸ゝたゝめてもゝひゝてゝあゝ行ゝ志ゝ芦ふの浦風　藤原師季

ゝゝ西和ゝの浦波ゝゝ舟いゝゝゝゝ波のゝゝすゝん　平泰時

續古

ゝゝゝゝ波ゝゝ芦の浦波ゝゝゝゝ波ゝゝゝゝゝゝん　平時道

芦浦や志ゝゝ波波漕ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　藤原光俊

袖ゝゝす形ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

同　同　同　

新千

芦の浦ふきの葉に果てし柱舟も今人たちの世に見つく

源経方

新後

四のうらに多ひろ井潟塩竈の浦々しらまん

参議為永

きてへとよわたの海に出て玉ちるつりの人数の名をもとめ

中納言親賢

たの浦ある四のうらにちかう立てもあとをやとめて

三位為永

尋ねよわたの海路の友鶴立四のうらゆくあとにつるの声

小槻臣遠

わたつみの神の玉垣立ちそふる色おそ[illegible]の岡松

参議高範

[illegible]八十島の美の浦波

左大臣

[illegible]

一品法親王寛尊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新續
拾遺
堀川
支木

わかの浦はうら代まあつや道の秋もうれしき　法印宗助
口の浦の干潟をふちく鶴の住そ　公実
わかの浦へいとゆうちん胡貝のひとふさてらす月ひかり　良風
わかれうれたるまく前栽のうつれの秋もさうれ世れ　赤大伝法院
口の風やこの法のあく老の中へよりてふる水　後九条内大臣
山たかをそこ見た代の風やの場るわかのうら成　大納言通具
君代い八重のそれそやうよむ匠口の入浦ちこ　嵯峨法師
くまのくまのうけるくれ　
わかの浦よ去ぐくこれ法師の月れ成ことやへの法風　右中納言定家
くまのくまのうかの代ぐくわかのうとうぐ　
白波の立ってもわかのうを海のつうびかのうふてうる　六條院宣旨
口のうや法師とて行四方の法きれ成れやる月新　後久我太政大臣

支木
信実

わかのうち古代ぐのけわ見もうつる牧はまと国ぐある　
口とはむうの月とうかてんちこ訓るわかれうん　
六百
口のうれ去ぐ去るこの成ぐ吉のまつもこるん　
林集
姿こを老るの歩く高うとこ油のうこれうれ成　
家集
たるくくうち行成老のうれ成法ふ法るこ蛍の法うる　
俊恵法師
わのうれ場るふ格ふ廣格こすこうん法をれくそ　
法輔朝臣
赤染衛門

副哥

格五
東こを君代格ぐそひこれわれれうれも立訓ふうう　
義法師

千代まそもまく八千代まそ口のうちはるれとて　
頼朝
口のうくのわかのうくれ藻塩艸去ぐくん　
湖子九
仲集
口のうくのあくん塩や海うちん千代とこある田野の格あ　
後考鳥院御製
老若
君代の法いこれ四方れ海の成ぐやもしるわのうくうち　
雅経

瀧玉　[illegible]　[illegible]　[illegible]

乘興篇舩相尋
和浦邊姬歌波
黙雲鮫泣雨如
烟沙岸餞鷗卯
苫磯釣客眠南
溟殊不遠九萬
夕陽前
熊野老人

浩歌醉上金山舟。陳跡欲尋明浦秋。忠墳千年宮寂
寂。仙妃一去水悠々。美容露落青牛渚。蘆荻風鳴白
鷺洲。此會相逢化何事。試將今古問沙鷗

狂歌貝合 夫曲も神のたまたま跡たれる和歌のうらなみ　法橋 雅

月

君が代に浪ちかくよるもわのうらつたふ鶴もあり　若山 貞亀

自愛和歌 和歌のうらの春をもうめ柳をもれまれ　宗祇法師

永れば日も花ちるやまわすれかうら　同

紅葉ちる和歌のうらに追付てうら　月

波をへて春まつ和歌の浦うらに色　魏亭

和詩

小貝なく浦い綿に翠そ霞むとろ堂　月

波もなたなの勝ちる夜に長通姫の浦む粉い

貝原先生南紀紀行 和歌山より里あり　東照宮右の山上に立たまへ宮たてり

大にしく其美要なり神領なり伽藍立て坊あり其さとり四
ばしらなる其景すぐれたり今月の山を眺かるよ咲て光
景もてなさんり沖なの下和合隠よ　東都沖鷺代
の沖霊廟あり其西雲蓋院に佛十水あり其佳景なり声
辺の田野なく詠ぶ　東照宮の下玉林の名花の有
ところなくしてなり玉神の社へ　東照宮のたりに並ぶ
景ぶと山上にあるを社文なりこれ大なりこれ約く
漁人の町なりたる和歌浦の海なりたる生ず沖より地の嶋沖の
海なる和歌のうらの海なりたる信濃より山なりたる
こめるこなる一枚の片男波なりこの説非なり男なるこれ大
なるなりの波なる小波なりロ此なりとなり其波波ばたあ
つちの内をでめるなるの波ふたひあるこやあるこたこと
なりなりく波人なりなりなり其迷ひ波さくこんこあわざくこの

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西浦い枝葉に杉のくき多る勝地にしく古人吐奇詠多しい
さく人丁百瓜粗さろう東西光徐町あらく濱生乃色濃
おしべの田鶴は間乃ちどうはうい洋くたう左方はいを鈴
今罰寳寺のりひれ多い悠揚して眼上洋くあるよさえんら
左菊はい生えが峯はしるるくく茂白吐御坂翠巒しろく
そびへ蔵ふいはしろ浦塩陳浦乃みるく郊にくく西海小海
四國乃高松あるいい関東乃出船入船あるく商家乃
行灯はしくも鮮ふりえん口ら西南い兼海漫くくく
大眺九萬里に羽を打伏あるこみる先初嶌あ紙ふみれ
るりふ千ヨ学の底ふあらびるる海士海坂むこびのるみる世と
るる業くしさるくくしくくく

家集

袖ひちて結びし水の氷れるを春の立つとやけさは見るらん　左　家

柏玉

ふるさとは春の霞むを小初瀬の山の桜は今ぞ盛り　後柏原院

雪玉

ゆきはなほ春の霞にまがへつつ小夜の衣の月の浦波　宮　隆

白川

霞立つ浦の初瀬の山もとの桜は今ぞ盛りなりける　忠綱朝臣

今もなほ春の霞にまがへつつ紀路に初瀬の山の桜　家

もとおりの山の桜は来ぬるかな　山

紀伊國名所圖會之二巻終

国立公文書館
National Archives of Japan